

第16回 全国高等学校ロボット競技大会

ベストで臨んだ山口県立岩国工業高等学校の「GANKO 白蛇」がパーフェクトな熊本県立御船高等学校の5連覇をわずか2秒差で阻んで優勝を果たす！

去る11月3日の文化の日、全国産業教育フェア大阪大会の一環として、第16回全国高等学校ロボット競技大会が、大阪市中央体育館メインアリーナで開催された。今年も完成されたロボットを擁する御船の連覇かと思われたが、最良の状態で臨んだ岩国工業がそれを2秒差で阻んだ。

「ロボマガ」記者・城井田勝仁



8個のバレーボールを、さまざまな障害物乗り越えながら、ゴールエリアへと運んで並べる

今大会の競技内容は、とてもシンプルだ。スタートエリアに並べられている8個のボールを、さまざまな障害物乗り越え

て、ゴールエリアまで運んで置く、というものだ。並んだレーンで対戦し、その達成時間の短いほうがトーナメントを勝ち上がっていく。

当初は達成時間が1分以内のチームはないだろうと思われていたのだが、ふたを開けてみるとそうしたチームが珍しくないほ

どの高レベルでの戦いとなった。下の写真の長崎県立長崎工業高等学校(以下「長崎工業」と略す)の「木木木林MAD」ほど全体が変形するロボットはなかったが、どれもさまざまな工夫があり、見ていて楽しめる試合が多かった。

1 スタートエリアのボールを取り込む



2 一本橋を渡る



3 ついたてをまたぐ



4 落とし穴を避ける



5 階段を上る



6 ゴールエリアにボールを並べる

